

2011 年 12 月 13 日

第 4 回 環境大学・環境学習円卓会議

資料 1：大学へのヒアリング結果

訪問先大学（訪問順）：熊本大学、崇城大学、熊本学園大学、鹿児島大学、熊本県立大学、九州看護福祉大学、慶應義塾大学、法政大学、東京大学

1. 各大学の意見を踏まえた検討の方向性

(1) コンセプト・ストーリーのつくり込み

主な意見	意見を踏まえた今後の検討事項
・アイデアを実現するにはストーリー（物語）をつくる必要がある。	・水俣の将来像をどのように描くか
・大学院の卒業生は社会のどのような所に輩出するのか。 ・地元の高校教師や高校生のニーズは聞いたのか。 ・大学側のメリットは何か。 ・研究と教育のバランスはどう考えているのか。 研究重視だと交流人口が限られる。	・どのような人材を輩出したいのか ・どのような場で活躍できるのか

【アイデアのヒント（キーワード）】

- ・大学を誘致することにより新しい農業・漁業・サービスが生まれる。
- ・身近な場所での教育・研究機能は持続可能なコミュニティの基盤となる。
- ・地元企業の奨学制度など卒業生が水俣で就業できることができる仕組みがあると良い。

(2) 教育・研究のテーマ

主な意見	意見を踏まえた今後の検討事項
・国水研や熊本学園大学現地研究センターなど地元の研究施設を活用してはどうか。 ・環境だけでは学生が集まらないのではないのか。 ・環境の研究は企業側にニーズが無く就職には有利にならないのではないのか。 ・水俣で教育を受ける、若しくは研究する必然性が必要である。 ・水俣に教員や学生が常駐するメリットはあるのか。	・水俣のシーズを活用し、かつ、社会的にニーズのある研究テーマは何か
・どうやって学生を集めるのか。 ・大学卒業後に水俣に戻ってくる方へのニーズには応えられるのか。 ・社会人を対象とするのか、高校卒業者を対象とするのか。 ・中国人留学生を対象とするのか。	・どのような人材をターゲットとするのか

【アイデアのヒント（キーワード）】

- ・複合的な課題に対応していくことが必要である。
- ・地域福祉に関する研究や研修、中高年の健康管理などが考えられる。
- ・震災復興と公害復興のプロセスには共通点があり、それをテーマとすることも考えられる。
- ・留学生をターゲットとして環境政策の横展開も考えられる。
- ・生活・生命・地域再生・医学・福祉なども考えられる。
- ・大学院を卒業しても使えない場合もあるので、専門職大学院という選択肢もある。

（３）今後の進め方

主な意見	意見を踏まえた今後の検討事項
・誰が学長をやるのか。 ・中心的に骨を折る人材が必要である。 ・熊本県内の大学をよく調べるべきである。 ・大学院の経済基盤は大学なので、経済基盤のしっかりした大学を確保する必要がある。 ・教員が退官すると後が続かないので、若い人材を確保することが必要である。	・コアとなる大学や人材の確保方策
・連携大学院は本当に実現可能なのか。 ・連携大学院のコア大学を務めるのは荷が重いのではないか。 ・みなまた環境塾の発展形で考えても良いのではないか。	・これまでの３案以外に想定される形態
・ソフト（人材など）・ハード（拠点施設など）両面からの資金計画が必要である。 ・オフィシャルな受け皿となる組織が必要ではないか。 ・市役所の担当者はすぐ異動せず最後までやり切ることが必要である。	・地元で準備できる支援方策 ・今後の推進体制

【アイデアのヒント】

- ・水俣を拠点とするならば熊本大学や鹿児島大学など近い場所に拠点を持つ人材で無いと難しい。
- ・地元の人材が講師を務めることで水俣の特徴が出てくる。
- ・学会等をつくることにより同好の士が集まり、そこから研究テーマが整理され、中心的に骨を折る人材が出てくる可能性がある。
- ・熊本の高等教育機関コンソーシアムを活用して検討することも考えられる。
- ・水俣だけでは無く近隣市町を巻き込むことが必要（天草、人吉など）
- ・最初から連携大学院を目指すのではなく、大学院リサーチパークとの間くらいの方法もあるのではないか（単位互換など）。

以上